



日本地球化学会ニュース

No. 211 December 2012

Contents

年会・総会報告	2
2012年日本地球化学会第59回年会実施報告	
2012年度日本地球化学会総会報告	
学会からのお知らせ	14
学会賞など受賞候補者推薦の募集	
2013年度第1回鳥居基金助成の募集	
評議員会議事録	14
2012年第2回日本地球化学会評議員会議事録	
研究集会報告とお知らせ	19
2011年度第2回鳥居基金助成実施報告書 (TE-71)	
2012年度第1回「鳥居基金」助成実施報告 (TE-72)	
2012年度第1回「鳥居基金」助成実施報告 (TE-73)	

年会・総会報告

●2012年日本地球化学会第59回年会実施報告

日本地球化学会年会実行委員会委員長
吉村和久（九州大学大学院理学研究院）

2012年度日本地球化学会第59回年会は、9月11日から13日までの3日間、九州大学箱崎キャンパスにおいて開催された。それに関連し、市民講演会、ショートコース、巡検を行った。それらを含む日程は次の通りである。

9月9日：2012年度日本地球化学会市民講演会「未来を拓く地球科学」

主催：日本地球化学会

会場：九州大学西新プラザ

9月10日：第7回日本地球化学会ショートコース
九州大学箱崎キャンパス（理系地区）
地球惑星科学第二講義室

9月11日～13日：日本地球化学会第59回年会

主催：日本地球化学会

共催：国立大学法人九州大学，日本化学会，日本分析化学会，日本鉱物科学会，日本地質学会

協賛：日本質量分析学会

会場：九州大学箱崎キャンパス文系地区

9月13日，14日：巡検

年会開始前の準備

昨年10月に、九州大学の日本地球化学会正会員全員（15名）からなる準備委員会が発足し、その後、福岡大の鮎沢会員、評議員会より企画担当の平田会員に加わって頂き、総勢17名のLOCが構成された。

学会とLOCの役割分担を明確にし、LOC構成員数が少なくても無理なく運営できるシステム作りを念頭に、LOC側の窓口としての赤木会員が平田会員と議論を開始した。

次の4点を確認した。

1. セッションの構成にはLOCは責任をもたない。セッションを基盤セッションと特別セッションに分け、基本的に基盤セッションは各評議委員が責任を持ち、特別セッションには、評議委員の選出分野にとらわれず、タイムリーで重要なものを含め、LOCが提案するセッションは特別セッションとして扱わ

れることとした。

2. 優秀発表賞の選考にはLOCは責任をもたない。
3. 学会が責任を持つ上記の件に関し、LOCはその作業を可能な範囲で協力する。
4. 共催および協賛学術団体の選定・依頼は学会の責任で行う。

サテライトイベントとして開催した市民講演会のための科学研究費研究公開促進費補助金の申請を行ったが、後に不採択の通知を受けた。ただし、不採択となっても開催することは当初から決めていた。

年会の運営は、次の日程に基づき進められた。この間、計5回の準備委員会を開催した。

4月23日～5月4日：特別セッション公募（学会）

7月17日：講演申し込み締め切り

8月24日：参加予約申し込み締め切り

学会より17の基盤セッション、6の特別セッションが立ち上がり、申し込み発表数は356件で盛況であった（内訳：口頭発表248件、ポスター発表105件、受賞講演3件）。一方で、講演申込締切の前日までの申込数が少なく（最終申込数の4分の1程度）、7月23日まで締切を延期した。実際には当初の締切までなされた申込数は298件であった。投稿数を考慮して特別セッションの2つを1つのセッションにまとめ、22の口頭発表セッションをA～Eの5会場において3日間開催した。ポスター発表は初日と2日目の2日間で行った。

発表申込を延長したことにより、プログラム編成および要旨集作成の作業が逼迫する原因となった。例年、発表申込の締切期日を延長しているため、今後の改善が望まれる。また、発表要旨の電子投稿がAppleコンピューターからできない事例が数件発生しお詫びを申し上げる。今後、ウェブシステムにおいて種々のコンピューターからの事前テストが必須である。

年会のウェブの管理は、国際文献社を通じて行われ、LOC側は栗崎会員が対応した。講演申し込み、講演要旨原稿の受付、クレジットカードによる事前参加登録料および懇親会費の徴収を国際文献社に委託したが、実際はおびただしい数の問い合わせがLOCにあった。クレジットカードが使えない人の事前登録については、登録情報をLOCにメールでお知らせ頂いた上で、登録料を銀行振り込みしていただいた。ウェブシステムの改善は可能な限り行った積りであるが、来年度に向けてさらに改善が求められる。経費の節約を期待して、講演要旨集の作成・印刷はLOCが行っ

たが、国際文献社から移行された情報は汎用性に欠け、索引編成に膨大な作業が必要となった。

9月9日は、学会に先立ち、市民講演会が開催された。石橋純一郎会員による『海底の恵みに囲まれている日本』と奈良岡浩会員による『魅惑の化学空間、宇宙』の講演があった。大学のHP掲載や高等学校理科教養研究会を通じた宣伝を行ったが、経費的に新聞に広告を掲載することができなかった。そのため、宣伝効果が小さく、聴衆は30名程度であった。ただし、参加者は熱心であり、高校生から核心に迫る質問もあった。

9月10日、受付、口頭発表会場A～E、ポスター会場などの準備を学生に手伝ってもらい、無事に終えた。ショートコースが別の会場で開催された。(ショートコースについては、別に平田会員より報告。)

年會会期

初日の朝の受付が混乱して、かなりの数の方には、仮受付をして、昼休み等に再度受け付けに来ていただくことになった。初日は五つの受付窓口を用意したが、全体の3/4の参加者が30分の間に手続きをすることは想定していなかった。多くの参加者に不便をおかけしたことをお詫びする。参加者数は以下の通りである。

大会参加者数	正会員 (含共催)	非会員	学生会員	学生非会員	計
事前登録	178	16	62	59	
当日登録	55	30	11	16	
計	233	46	73	75	427

各セッションのコンピーナーの協力で、無事にセッションが進行した。各会場のおおまかな参加者数は以下の通りである。

会場	11日		12日	13日	
	午前	午後	午前	午前	午後
A	35	85	50	50	60
B	100	100	90	40	
C	70	50	50	30	40
D	80	80	80	80	40
E	40	50	50	40	60

ポスター会場には初日および二日目のコアタイム中、常におおよそ170名が来場し、活発な議論が展開された反面、かなり手狭となり、会場外にはみ出した参加者も多数見受けられた。

初日にはさらに学会の将来計画委員会による夜間集

会が開催された。今年度は会場使用の制約もあり、すべての会場でLOCからの飲食物の提供は行わなかった。

二日目の午後は総会に続き受賞講演会があった。日本地球化学会奨励賞受賞者のうち澁谷岳造会員(海洋研究開発機構)に関しては日程の都合がつかず受賞講演が行われなかったが、川口慎介会員(海洋研究開発機構)と長島佳菜会員(海洋研究開発機構)の奨励賞受賞講演および杉浦直治会員(東京大学)の学会賞受賞講演が行われた。

二日目夕刻より九州大学中央食堂にて懇親会を催した。参加者は220名超(うち、正会員130名(事前受付117名、当日受付13名)、学生会員40名(事前31名、当日9名)、非会員14名(全て事前)、学生非会員12名(全て事前)、招待講演者21名、など)。冒頭に吉村和久大会委員長、そして荒殿誠九州大学理学研究院長の挨拶をいただき、吉田尚弘日本地球化学会会長に乾杯の音頭をとっていただき開会した。歓談は2時間を越え、次期大会LOCの野尻幸宏会員の挨拶をいただき、無事に閉会となった。

三日日には、昼休み時間を利用して、次期大会LOC(実行委員長 野尻幸宏会員)メンバーとの情報交換会を開催した。夕方には閉会式が行われ、若手発表賞に選ばれた有賀大輔(広島大学)、鄒韻(東京工業大学)、中田亮一(広島大学)、中村淳路(大気海洋研究所)、橋口未奈子(北海道大学)、向高新(東京工業大学)、横山由佳(広島大学)の7名の方に吉田会長より賞状と副賞(学会マグカップ)が贈呈された。

会期中には11社の企業展示が行われた。会場の都合でポスター会場に併設することはできなかった。そこで、スタンプラリーを行うことで、来場者数を増やす工夫を行った。

巡検は、参加者5名(うち学生3名)に担当者2名(石橋・宮本)で、13日の閉会式終了後から14日にかけて1泊2日の日程で実施した。「別府=島原地溝帯に見られる地球化学的現象」というテーマのもとで、船小屋温泉、島原半島の火山性温泉、雲仙火山に関する展示施設などを見学した。13日の夜には関連報文の紹介と検討会、および懇親会を行った。参加人数が少なかったため、レンタカーを借り上げ担当者が運転した。これにより交通費をほぼLOC負担とし、参加者負担分を¥12,000に押さえることができた。

今回の年會実行委員会は、赤木右、鮎沢潤、石橋純一郎、宇都宮聡、岡崎隆司、北逸郎、北島富美雄、栗

崎弘輔, 下島公紀, 杉原真司, 奈良岡浩, 平田岳史, 宮本知治, 百島則幸, 山内敬明, 横山拓史, 吉村和久のメンバーで, プログラム, 会場, 受付, 懇親会, 企業受付, 会計, アルバイト, 市民講演会, 巡検などの役割を重複しながら分担して運営した。

年会の開催に当たり, 国立大学法人九州大学, 日本化学会, 日本分析化学会, 日本鉱物科学会, 日本地質学会には共催を, 日本質量分析学会には協賛して頂いた。また, 多くの企業に展示及び広告掲載を通じて, 会の運営にご協力頂いた。さらに, 学会の評議員にはセッションのコンビーナーとして年会の運営にご尽力頂いた。お礼申し上げます。最後になります。年会に参加された多数の方々に, 大会を盛り上げていただき, 成功裡に終えることができました。皆さんに深く感謝いたします。

●2012年度日本地球化学会総会報告

庶務幹事 豊田 栄
(東京工業大学大学院総合理工学研究科)

日時: 2012年9月12日 15時00分~16時25分
場所: 九州大学箱崎キャンパス文系地区, 大講義室
第59回年会(九州大学箱崎キャンパス)期間中に開催した。

1. 開会宣言
2. 議長選出

野尻幸宏会員(次期年会 LOC)が議長に選出された。

3. 会長挨拶 吉田尚弘会長
4. 大会委員長挨拶 吉村和久委員長
5. 議事

- 1) 2011年度事業報告および決算報告, 監査報告
2011年度事業報告(豊田庶務幹事), 決算報告(南会計幹事), 監査報告(清水監事)が行われ, 承認された。
- 2) 2012年度事業中間報告および会計中間報告
2012年度事業(豊田庶務幹事), 会計(南会計幹事)について中間報告が行われた。
- 3) 2013年度事業計画および予算案

2013年度事業計画案(豊田庶務幹事)および予算案(南会計幹事)が提案され, 承認された。

- 4) 会則の改正について

吉田会長から会則8条および9条の改訂案(副会長を2名とし, 会長に事故あるときは協議の上1名の副会長が会長の代理となる)について趣旨説明があり, 承認された。

- 5) ゴールドシュミット(Goldschmidt)2016国際会議の日本開催について

吉田会長から経緯が説明された。前日に開催された夜間集会での議論に基づき会場候補地を①横浜, ②大阪, ③神戸の順で絞り込んだこと, および第4回評議員会において組織委員長に益田晴恵会員が選任されたことが報告された。益田組織委員長から挨拶があった。

- 6) 各種報告

原田幹事がGoldschmidt 2012モンテリオール会議の報告と2013フィレンツェ会議の概要についての紹介を行った。

6. 会場からの意見, 提案など

特になし

7. 2012年度日本地球化学会賞, 日本地球化学会奨励賞授賞式

- 1) 日本地球化学会奨励賞

川口慎介会員「還元性気体に注目した深海底環境生態系に関する地球化学的研究」

- 2) 日本地球化学会奨励賞

長島佳菜会員「石英結晶の物理的特性に基づく風成塵供給源推定法の確立と古気候復元への応用」

- 3) 日本地球化学会奨励賞

澁谷岳造会員「地球史を通じた海底熱水系進化に関する地質学的・地球化学的・実験的研究」

- 4) 日本地球化学会賞

杉浦直治会員「初期太陽系の年代学・物質進化に関する研究」

吉田会長から各賞受賞者に賞状とメダルが授与された。

8. 閉会宣言

2011年度事業報告

1. 会員状況 (2011年1月1日～12月31日)

	正会員	一般 正会員	学生会員 (除学生 バック)	学生 バック	シニア 正会員	賛助会員	名誉会員	計	在外会員
2010.12.31	898	717	64	55	62	9	9	916	38
入会	61	24	7	30	0	0	0	61	1
退会・ ご逝去	-30	-18	-8	-3	-1	0	0	-30	0
会員 種別変更 (転入分)	-2	0	0	0	-2	0	-1	-3	0
会員 種別変更 (転出分)	-3	12	6	-21	0	0	3	0	-2
除名	-11	-4	-6	0	-1	0		-11	-2
2011.12.31	913	731	63	61	58	9	11	933	35

2. 年会, 委員会等開催

日本地球惑星科学連合2011年大会 (2011/5/23～28, 幕張メッセ国際会議場), Goldschmidt 2011 (2011/8/13～18, チェコ共和国, プラハ), 年会 (2011/9/14～16, 北海道大学), 総会 (2011/9/15, 北海道大学), 評議員会4回 (2011/2/12, 6～8月 (電子メール審議), 9/13, 9/16), 幹事会5回 (2011/2/5, 5/24, 7/16, 9/3, 12/18), GJ編集委員会2回, 地球化学編集委員会1回, 学会賞等受賞者選考委員会1回, 鳥居基金選考委員会2回。

3. 会誌発行

Geochemical Journal : Vol. 45 (1～6)

地球化学 : Vol. 45 (1～4号)

4. ニュース発行

No. 204 (2011/3/25), 205 (7/10), 206 (8/31), 207 (12/25) (和文誌「地球化学」と合本)。

5. 第6回 地球化学ショートコースの実施 (2011/9/13)

6. 日本地球化学会賞等の授与 (学会賞1件, 功労賞1件, 奨励賞3件)

7. GJ賞授与 (Goldschmidt 2011会場にて)

8. 名誉会員3名の推薦

9. 鳥居基金助成

第1回: 海外渡航1件, 国内研究集会1件, 第2回: 海外渡航1件

10. 学会などの共催, 後援, 協賛

- ・廃棄物資源循環学会「第17回地下水・土壌汚染とその防止対策に関する研究集会」(2011/6/16～17) 後援
- ・日本アイソトープ協会「第48回アイソトープ・放射線研究発表会」(2011/7/6～8) 共催

- ・日本分析化学会・日本地球化学会・日本放射化学会「放射能・放射線を正しく理解する～福島第一原子力発電所事故に関連して～」共同講演会 (2011/7/9)

- ・Goldschmidt 2011 (2011/8/13～18) 共催

- ・日本質量分析学会「第59回質量分析総合討論会」(2011/9/13～15) 共催

- ・日本粘土学会「第55回粘土科学討論会」(2011/9/14～16) 共催

- ・日本原子力学会「原子力総合シンポジウム2011」(2011/10/19) 共催

- ・地熱学会「平成23年学術講演会」(2011/11/9～11) 協賛

2012年度中間事業報告

1. 会員状況 (2012年1月1日～8月31日)

	正会員	一般 正会員	学生会員 (除学生 バック)	学生 バック	シニア 正会員	賛助会員	名誉会員	計	在外会員
2011.12.31	913	731	63	61	58	9	11	933	35
入会	47	12	9	26	0	1	0	48	0
退会・ ご逝去	-12	-7	-2	-2	-1	0	0	-12	0
会員 種別変更 (転入分)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
会員 種別変更 (転出分)	0	5	22	-29	2	0	0	0	0
除名	47	12	9	26	0	1	0	48	0
2012.12.31	948	741	92	56	59	10	11	969	35

2. 年会, 委員会などの開催

日本地球惑星科学連合2012年大会 (2011/5/20～25, 幕張メッセ国際会議場), Goldschmidt 2012 (2012/6/24～29, カナダ, モントリオール), 年会 (2012/9/11～13, 九州大学), 総会 (2012/9/12, 九州大学), 評議員会4回 (2012/2/11, 6～8月 (電子メール審議), 9/10, 9/11), 幹事会3回 (2012/2/4, 5/20, 9/1), GJ編集委員会1回, 地球化学編集委員会1回, 学会賞等受賞者選考委員会1回, 鳥居基金選考委員会2回, 名誉会員推薦委員会0回, 広報委員会4回。

3. 会誌発行

Geochemical Journal : Vol. 46 (1～4)

地球化学 : Vol. 46 (1～2号)

4. ニュース発行

No. 208 (2012/4/16), 209 (2012/7/16) (和文誌「地球化学」と合本)。

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 5. 第7回 地球化学ショートコースの実施 (2012/9/10) 6. 日本地球化学会賞等の授与 (学会賞1件, 奨励賞3件) 7. GJ賞の授与 (Goldschmidt 2012会場にて) 8. 鳥居基金助成
第1回: 海外渡航1件, 国内研究集会1件, 第2回: 海外渡航1件 9. 学会などの共催・後援・協賛 <ul style="list-style-type: none"> ・第18回地下水・土壌汚染とその防止対策に関する研究集会 (2012/6/14~15, 地盤工学会, 後援) ・第49回アイソトープ・放射線研究発表会 (2012/7/9~11, 東大農学部, 共催) ・第40回可視化情報シンポジウム (2012/7/24~25, 工学院大学新宿キャンパス, 協賛) | <p>2012年度事業計画</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 年会: 筑波大学 (2013年9月第2週) 2. 総会: 筑波大学 (年会期間中) 3. 日本地球惑星科学連合2013年大会 (5/19~24, 幕張メッセ国際会議場) 4. ゴールドシュミット2013 (8/25~30, イタリア, フィレンツェ) 5. 評議員会4回 (うち1回は電子メール審議) 6. 幹事会4回 7. 会誌発行
Geochemical Journal: Vol. 47 (1~6)
地球化学: Vol. 47 (1~4) 8. ニュース発行 No. 212~215 9. 日本地球化学会賞等の授与 10. 鳥居基金助成2回 (1月, 7月) 11. 学会などの共催・協賛 12. 役員選挙の実施 |
|---|---|

2011年日本地球化学会決算報告 (2011年1月1日～12月31日)

収入の部

科目	収入額 (円)		予算額 (円)	
1. 会費収入	8,341,000		8,490,000	
(内訳) 一般正会員		7,030,000		7,080,000
学生正会員		507,500		511,500
シニア正会員		295,000		315,000
賛助会員		240,000		220,000
海外会員		268,500		363,500
2. 刊行物売上	3,357,240		4,155,900	
3. 広告料	690,000		520,000	
(内訳) 地球化学		480,000		400,000
会員名簿		0		0
ウェブ		210,000		120,000
4. 出版助成	2,900,000		2,900,000	
5. 公開発表助成	0		0	
8. 雑収入	449,239		50,000	
9. 前年度名簿積立金	0		0	
10. 前年度基本財産引当金	3,400,000		3,400,000	
11. 前年度繰越金	14,034,808		10,588,391	
収入計	33,172,287		30,104,291	

支出の部

科目	支出額 (円)		予算額 (円)	
1. 事業費	15,051,332		14,860,000	
1.1 出版費	12,441,266		11,700,000	
1.1.1 印刷費	10,204,089		9,500,000	
1.1.2 編集費	1,299,403		1,650,000	
1.1.3 電子化経費	252,000		50,000	
1.1.4 発送費	685,774		500,000	
1.2 行事費	471,040		600,000	
1.3 公開発表助成	0		0	
1.4 学会賞経費	78,498		80,000	
1.5 委員会活動費	116,200		300,000	
1.6 名簿積立金	150,000		150,000	
1.7 名簿作成費	0		0	
1.8 会員業務委託費	1,775,763		2,000,000	
1.9 会員業務郵税	18,565		30,000	
2. 管理費	1,092,914		1,710,000	
2.1 庶務費	0		150,000	
2.2 会議費	0		50,000	
2.3 通信費	0		10,000	
2.4 旅費	365,700		700,000	
2.5 選挙費	85,150		100,000	
2.6 会計費	0		50,000	
2.7 雑費	7,455		50,000	
2.8 ホームページ費用	401,100		400,000	
2.9 雑誌保管費	233,509		200,000	
3. 予備費	0		400,000	
4. 基本財産引当金	3,400,000		3,400,000	
7. 次年度繰越金	13,628,041		9,734,291	
支出計	33,172,287		30,104,291	

1.1. 出版費明細

事項	英文誌	和文誌	ニュース	その他	支出計
1.1.1 印刷	7,437,864	2,766,225	←	0	10,204,089
1.1.2 編集	1,100,000	199,403	0	0	1,299,403
1.1.3 電子化	252,000	0	0	0	252,000
1.1.4 発送	685,774	←	←	0	685,774
出版費計	9,475,638	2,965,628	0	0	12,441,266

英文誌：Geochemical Journal：Vol. 44, No. 1～6。

和文誌：地球化学：Vol. 44, 1～4号（ニュース No. 200～203を合本発行）。

ニュース印刷費は和文誌に含まれる。

和文誌4号は、全て英文誌と同時に発送し、発送費は英文誌に含まれる。

貸借対照表 (2011年12月31日現在)

資産の部		負債・正味財産の部	
現金	3,735	前受会費	2,307,000
普通預金 (会計)	3,299,508	基本財産充当引当金	3,400,000
普通貯金	11,198,202	正味財産 (繰越金)	13,628,041
国際文献印刷 郵便振替	3,947,940	計	19,335,041
国際文献印刷 みずほ銀行	885,656		
計	19,335,041		

2011年度鳥居基金決算報告 (2011年1月1日～12月31日)

収入の部		支出の部	
科目	金額 (円)	科目	金額 (円)
1. 前年度繰越金	2,505,111	1. 助成	300,000
2. 普通貯金利子	1,162	内訳 助成100,000円3件	
3. その他	0	2. その他	2,520
収入計	2,506,273	3. 次年度繰越金	2,203,753
		支出計	2,506,273

資産状況	
科目	金額 (円)
普通貯金	2,203,753
定額貯金	0
資産計	2,203,753

2011年度ゴールドシュミット国際会議基金決算報告 (2011年1月1日～12月31日)

収入の部			支出の部	
科目	金額 (円)	備考	科目	金額 (円)
1. 前年度繰越金	1,883,378		1. Goldschmidt 2010共催金	0
2. その他	300,000	立正大 LOC より	2. その他	0
収入計	2,183,378		3. 次年度繰越金	2,183,378
			支出計	2,183,378

2012年度日本地球化学会中間決算（2012年1月1日～7月31日）

収入の部

科目	収入額（円）		予算額（円）	
1. 会費収入	7,363,000		8,505,000	
(内訳) 一般正会員		6,260,000		7,120,000
学生正会員		230,000		360,000
学生正会員(修士バック)		168,000		171,500
シニア正会員		285,000		315,000
賛助会員		180,000		180,000
海外会員		240,000		358,500
2. 刊行物売上	0		3,771,360	
3. 広告料	70,000		600,000	
(内訳) 地球化学		0		480,000
会員名簿		0		0
ウェブ		70,000		120,000
4. 出版助成	2,700,000		2,700,000	
5. 成果公開助成	0		0	
6. 雑収入	300,157		50,000	
7. 前年度名簿積立金	0		0	
8. 前年度基本財産引当金	3,400,000		3,400,000	
9. 前年度繰越金	13,628,041		9,734,291	
収入計	27,461,198		28,760,651	

支出の部

科目	支出額 (円)		予算額 (円)	
1. 事業費	6,154,982		14,712,000	
1.1 出版費		3,961,576		11,652,000
1.1.1 印刷費		2,338,707		9,500,000
1.1.2 編集費		1,300,000		1,400,000
1.1.3 電子化経費		0		252,000
1.1.4 発送費		322,869		500,000
1.2 行事費		602,630		600,000
1.3 公開発表		0		0
1.4 学会賞経費		35,585		80,000
1.5 委員会活動費		64,400		200,000
1.6 広報委員会経費		150,000		150,000
1.7 名簿作成費		0		0
1.8 会員業務委託費		1,330,421		2,000,000
1.9 会員業務郵税		10,370		30,000
2. 管理費	942,014		1,460,000	
2.1 庶務費		100,000		100,000
2.2 会議費		0		50,000
2.3 通信費		0		10,000
2.4 旅費		626,200		600,000
2.5 選挙費		0		0
2.6 会計費		0		50,000
2.7 雑費		12,514		50,000
2.8 ホームページ費用		100,800		400,000
2.9 雑誌保管費		102,500		200,000
3. 予備費	169,200		400,000	
4. 基本財産引当金	3,400,000		3,400,000	
5. 次年度繰越金	0		8,788,651	
支出計	10,666,196		28,760,651	

2013年度日本地球化学会予算 (2013年1月1日～12月31日)

収入の部

科目	2013年予算額 (円)		2012年予算額 (円)	
1. 会費収入	8,117,000		8,505,000	
1.1 一般正会員		6,726,000		7,120,000
1.2.1 学生正会員		418,000		360,000
1.2.2 学生正会員(修士パック)		160,000		171,500
1.3 シニア正会員		280,000		315,000
1.4 賛助会員		200,000		180,000
1.5 在外会員		333,000		358,500
2. 刊行物売上	0		3,771,360	
3. 広告料	600,000		600,000	
3.1 地球化学		480,000		480,000
3.2 会員名簿		0		0
3.3 ウェブ		120,000		120,000
4. 出版助成	0		2,700,000	
5. 成果公開助成	0		0	
6. 雑収入	50,000		50,000	
7. 前年度名簿積立金	0		0	
8. 前年度基本財産充当金	3,400,000		3,400,000	
9. 前年度繰越金	8,788,651		9,734,291	
収入合計	20,955,651		28,760,651	

支出の部

科目	2013年予算額 (円)		2012年予算額 (円)	
1. 事業費小計	8,952,000		14,712,000	
1.1 出版費	6,102,000		11,652,000	
1.1.1 印刷費	3,600,000		9,500,000	
(GJ)	1,100,000		7,000,000	
(地化)	2,500,000		2,500,000	
1.1.2 編集費	1,350,000		1,400,000	
(GJ)	1,100,000		1,100,000	
(地化)	200,000		200,000	
(ニュース/HP)	50,000		100,000	
1.1.3 電子化経費	752,000		252,000	
1.1.4 発送費	400,000		500,000	
1.2 行事費	600,000		600,000	
1.4 学会賞経費	80,000		80,000	
1.5 委員会活動費	200,000		200,000	
1.6 広報委員会経費	150,000		150,000	
1.8 会員業務委託費	1,800,000		2,000,000	
1.9 会員業務郵税	20,000		30,000	
2. 管理費小計	1,640,000		1,460,000	
2.1 庶務費	100,000		100,000	
2.2 会議費	30,000		50,000	
2.3 通信費	10,000		10,000	
2.4 旅費	600,000		600,000	
2.6 会計費	50,000		50,000	
2.7 雑費	50,000		50,000	
2.8 ホームページ費用	600,000		400,000	
2.9 雑誌保管費	200,000		200,000	
3. 予備費	400,000		400,000	
4. 基本財産引当金	3,400,000		3,400,000	
5. 次年度繰越金	6,563,651		8,788,651	
支出計	20,955,651		28,760,651	
実収入	8,767,000		15,626,360	
実支出	10,992,000		16,572,000	
差引	-2,225,000		-945,640	

ただし、実収入：収入計から繰越金、基本財産引当金、名簿積立金を除いたもの。

実支出：支出計から繰越金、基本財産引当金、名簿積立金を除いたもの。

学会からのお知らせ

●学会賞など受賞候補者推薦の募集

「柴田賞・学会賞・奨励賞・功労賞」

2013年度受賞候補者推薦の募集

日本地球化学規定により、柴田賞・学会賞・奨励賞・功労賞受賞候補者の推薦を募集いたします。つきましては、下記をご参照の上、会員各位のご関係で適当と思われる受賞候補者を、自薦他薦を問わずご推薦下さいますようお願いいたします。

候補者の資格：

- (柴田賞) 地球化学の発展に関し、学術上顕著な功績のあった者。
- (学会賞) 地球化学の分野で特に優秀な業績を取めた本会会員。
- (奨励賞) 地球化学の進歩に寄与するすぐれた研究をなし、なお将来の発展を期待しうる本会会員。受賞者の年齢は、2013年4月1日において満35歳未満である(誕生日が1978年4月2日以降である)ことを要する。
- (功労賞) 我が国の地球化学あるいは本会の発展に関し寄与のあった者、または団体。

募集の方法：本会会員の推薦による。

推薦の方法：所定用紙に記載し、2013年1月31日(木)までに庶務幹事へ提出する(消印有効)。

提出先：豊田 栄(庶務幹事)

〒226-8502 横浜市緑区長津田町4259

mailbox G 1-26

東京工業大学大学院総合理工学研究科

環境理工学創造専攻

Phone：045-924-5559, Fax：045-924-5559

E-mail: affairs@geochem.jp

推薦の書式は、学会ホームページからダウンロードできます。

<http://www.geochem.jp/prize/index.html>

同様の書式をワープロ等で作成していただいても結構です。

この件についてのお問い合わせは、本会庶務担当幹事(上記)までお願いします。

●2013年度第1回鳥居基金助成の募集

2013年度第1回鳥居基金助成の応募の締め切りは、2013年1月31日(消印有効)となります。本学会ホームページに応募要項がありますので、ご参照の上、応募書類を提出して下さい。なお今回の助成の対象は、2013年4月から2014年3月までの1年間に実施される海外渡航及び国内研究集会となりますのでご注意ください。

<http://www.geochem.jp/prize/torii.html>

申請手続

応募者は、学会ホームページからダウンロードした申請書((1)-Aまたは(1)-B)を所定の期日までに下記に提出して下さい。参考となる資料(海外派遣については業績リストおよび学会参加の場合は学会概要等、国内研究集会については集会の案内・概要等)を添付してください。なお、海外渡航により国際学会等での研究発表を行う場合は、申請書の「研究の概要・経費の支援を必要とする理由」欄に、渡航にあたっての抱負や発表する論文の内容・重要性、なぜ鳥居基金の補助を必要とするかについて記載して下さい(2012年度から様式が改訂されていますのでご注意ください)。また、海外派遣に関しては、他の研究助成金との重複受給は認められておりませんので、ご注意ください。

提出先：豊田 栄(庶務幹事)

〒226-8502 横浜市緑区長津田町4259

mailbox G 1-26

東京工業大学大学院総合理工学研究科

化学環境学専攻

Phone：045-924-5559, Fax：045-924-5559

E-mail: affairs@geochem.jp

評議員会議事録

●2012年第2回日本地球化学会評議員会議事録

2012年6月～8月に電子メール会議として開催した。ただし、第1回評議員会以降、6月までに電子メールで審議された緊急案件も含む。カッコ内は審議期間。

1. 審議事項

1.1. 2011年度 GJ 論文賞授賞者決定 (3/22~23)

岩森選考委員長から選考委員会にて審議した結果以下の論文を選定したとの報告があり、承認された。Saeko Fujiwara, Koshi Yamamoto and Koichi Mimura, "Dissolution processes of elements from subductingsediments into fluids: Evidence from the chemical composition of the Sanbagawapolitic schists", *Geochemical Journal*, Vol. 45, pp. 221 to 234

1.2. 原子力シンポジウム共催について (5/11~17)

共催分担金 (5,000円) の支出について了承された。運営委員は松尾基之会員に依頼。

1.3. 年会セッションについて (5/13~18)

平田企画幹事から「学会基盤セッション」(評議員が中心となりとりまとめたもの)が17, 「特別セッション」(一般公募したもの)が6, 計23セッションが提案されたとの報告があり, 1セッションの軽微な名称変更の後, 了承された。

1.4. 日本地球惑星科学連合 (JpGU) 大気海洋・環境科学セクションの名称変更について (5/28~30)

JpGU から会長宛に意見照会のあった, 大気海洋・環境科学セクションの名称変更案「大気海洋陸水・環境科学セクション」について了承された。

1.5. Goldschmidt 国際会議 (GC) 日本開催について (6/1~5)

会長から米国 *Geochemical Society* (GS) から2016年の GC 日本開催について打診があったとの報告があった。開催を可とし, 検討を開始する GC 開催検討 TF メンバー (吉田会長, 平田・益田・佐野評議員, 鈴木勝彦・上野雄一郎会員の計6名) が承認された。開催時期については6~9月に意見が集約されたが, 開催場所については様々な意見が出された。

1.6. JpGU 科研費成果公開促進費対応臨時委員会について (6/1~4)

欧文誌出版助成に関わる科研費制度が来年度から大幅改訂される予定で, JpGU との連携が必要になった。JpGU がこれに関する幹事会を設置することになり, 本会からの委員派遣について打診があった。幹事会と出版 WG での検討に基づき以下の提案が会長から出され, 承認された。

1. 今回, 最初の段階で JpGU 幹事会に新たに本会会員に参加いただくことを申し出ない。

2. JpGU 副会長でもある川幡評議員には, 引き続き, 情報収集と会長・幹事会・評議員会へのレベルに応じた情報提供をお願いし, 本会会員としての発言も必要があればしていただく。

3. JpGU が立ち上げる新 Journal の Editorial board member としては, 例えば, 小嶋会員あるいは同等な方を入れていただくようにする。

4. いずれ (かなり早い段階かもしれないが,) 横串としての Journal の存在についての議論に入ろうとする段階では, 幹事会に本会会員を新たに加えるよう提案する。

1.7. 副会長複数制について (6/6~16)

副会長複数制について, 学会組織改革タスクフォース (TF) での議論に基づく以下の提案趣旨と会則改正案が審議された。副会長複数制については承認されたが, 2名の副会長の役割分担について慎重な検討が必要だとする意見が出された。

趣旨:

少子高齢化で会員数減少が一般的となる難しい社会情勢のなか, 国内的にも, 国際的にも本会を取り巻く環境の変化に対応して, 本会の活動の戦略的な運営が求められている。会員数の維持・拡大や年会の正常発展, 雑誌出版, 財政など, 以前に増して, 学会内で緊急に意思決定すべきことが多くなってきている。国内においては, 連合および他学会・研究会, 出版社との関係など, 重要で遅滞のない, かじ取りが要求される。一方, 国際的にも, Goldschmidt Conference (GC) の運営や, GS や EAG, および中国を初めとしたアジア・オセアニアとの関係強化など国際連携の必要性が強くなってきている。

これまでの副会長1名の体制を改正し, 副会長 (国際対応) と副会長 (国内対応) の2名体制とし, 会長への集約を密に行うことで, 会務の円滑な運営とともに, 中長期的な継続性が強化されると期待される。

1.8. JpGU のパートナーシップ・ジャーナルへの合流について (6/7~14)

1.6の審議事項に関連して, 今後, GJ と JpGU のジャーナルとの連携は強まることが予想される。そこで, 一昨年, JpGU 事務局から提案のあった「パートナーシップ・ジャーナル」に合流し, JpGU の広報活動を通じて国内外で *Geochemical Journal* を宣伝してもらうという案が折橋評議員か

ら出され、承認された。なお、本会が負う義務は GJ 表紙に JpGU ロゴを入れることである。

1.9. 学会賞等授賞者について (6/8~15)

学会賞 1 件、奨励賞 3 件、功労賞 1 件の推薦に対して選考委員会にて審議した結果、学会賞に杉浦直治会員、奨励賞に川口慎介会員、長島佳奈会員、澁谷岳造会員をそれぞれ選定した旨、岩森選考委員長から報告され、承認された。

1.10. GC タスクフォース (TF) に対する要望等について (7/26)

GC-TF の第 1 回会合 (7 月 20 日(金)) の議事録および日本政府観光局より入手した会場候補比較表が会長より提示されたが、TF に対する要望は特に出されなかった。

1.11. 和文誌新表紙について (8/15)

高橋編集長より、次回評議員会の議案として、GJ の表紙変更を受けた「地球化学」の表紙改訂が提案され、素案について意見照会があった。

2. 報告事項等

2.1. 会長

2.1.1. 日本地球化学会と中国鉱物岩石地球化学会間研究交流の MOU (覚書) 締結 (7/26)

8 年ほど前から懸案であり、昨年の総会でご了承いただいた表記 MOU の調印式を 7 月 16 日に北京で行いましたことをご報告申し上げます。本会 HP の写真にあるように厳かに、かつ和やかに行われました。本会からは海老原前会長、張富山大教授と吉田が、中国側からは劉中国鉱物岩石地球化学学会会長と 10 数名の幹部の先生方が参加されました。日程調整の関係で延びておりましたが本年 1 月 1 日に遡って締結されました。調印式後、双方の学会紹介、ここに至る経緯が披露されたのち、今後の交流について意見交換をしてみました。その折に、先日のニュースでご報告した GC 2016 に関するこれまでの情報交換と、今後の協力関係についても建設的な意見交換をしてみました。大変一般的な MOU ですので、会員の皆様の活動がこの MOU のもとさらに広がることを期待したいと存じます。

2.1.2. 学会からのお知らせ「大震災関連」(9)

Geochemical Journal 特集号 Fukushima Review が全文オープンアクセスで公表されました。昨年 3 月の福島第一原子力発電所の事故に起因する放射性物質の放出と拡散が問題となっています。本

会および本会会員は初期から活動を展開して来ました。その中で、昨年 8 月にプラハで行われた Goldschmidt 国際会議において、本会は Fukushima Review という特別セッションを国際的に共催し、昨年 9 月に札幌で開催された年会において、災害による環境汚染および復興の地球化学という特別セッションを年会と共催しました。

これらの機会にご講演いただいた演者の方々を中心に、海老原充会員、吉田尚弘会員、高橋嘉夫会員を Guest editor として GJ 誌に Fukushima Review という特集号を企画し、投稿を呼びかけ、Preface 1 編と原著論文 12 編、およびすでに出版されているが関連する Note と E-letter 各 1 編を加えて、ウェブ <http://www.terrapub.co.jp/journals/GJ/FukushimaReview.html> 上で、全文オープンアクセスで公表されました。関連する論文ということもあり特集号内論文でも、また他誌ではありますがほぼ同時に公表された Perspective, Review などとも相互引用をすることで内容を深め、周知が図られました。ご投稿いただいた著者の方々、Guest editor, Editor の皆様にも深く感謝いたします。それとともに会員の皆様にも広くお読みいただければ幸いです。まだ現在進行形の災害でもあり、今後もこのような研究とその公表の場が持たれると思います。その一歩となれば幸甚に存じます。

2.2. 庶務 (豊田幹事)

2.2.1. 第 1 回鳥居基金の選考結果

- ・ 6 件の応募者 (うち 1 件は 3 月 16 日に取り下げ) の中から尾崎和海会員 (第 22 回ゴールドシュミット会議での研究発表、カナダ) および安田早希会員 (2012 年度日本地球化学若手シンポジウム) が採択された。

2.2.2. GJ 賞授賞式準備

- ・ 会長から OC 委員長およびプログラム委員長に対して受賞講演の可能性を打診していたところ、初めて認められ、受賞講演の機会を与えられた。受賞者に打診したところ辞退されたので、結果として受賞講演は行われなかったこととなった。次回以降、引き続きこのような機会をもてるよう努力したい。
- ・ 盾 (筆頭著者) は清田工芸に、賞状 (著者全員) は東陽印刷に発注した。なお、今年から GJ の表紙デザインが更新されたことから、盾および賞状に記されるロゴについて検討した。GJ の新ロゴ

- はデザインが複雑で盾の金属製銘板には不向きと考えられたため、学会ロゴを使用することとした。
- 2.2.3. 協賛，共催，後援
- ・国際火山学地球内部化学協会2013年学術総会 (IAVCEI 2013 Scientific Assembly, 2013年7月20～24日，日本火山学会主催，鹿児島市，後援)
 - ・第40回可視化情報シンポジウム (7月24～25日，工学院大学新宿キャンパス，協賛)
 - ・原子力総合シンポジウム2012 (10月，共催)
- 2.2.4. 各種表彰の推薦
- ・第9回日本学術振興会賞 候補者の推薦受付 (2月28日メールニュース配信)，3月31日の庶務幹事宛締切までに応募はなかった。
 - ・第3回日本学術振興会育志賞候補者の推薦受付 (3月22日メールニュース配信，5月31日庶務幹事宛締切) 現在応募ゼロ
- 2.2.5. 年会準備関係
- ・H24科研費「研究成果公開促進費」(一般向け講演会用に昨年度申請)は不採択。所見「企画の意義は理解できるが，ここに示されたいいくつかの独立なテーマの単なる講演会のみでは，主に高校生を対象とした企画としては，啓蒙の効果にやや疑問が残る。」
 - ・共催依頼：日本化学会，日本分析化学会，日本鉱物科学会，質量分析学会 (相手側の要望により協賛とする)，日本地質学会
- 2.2.6. 2012年第2回幹事会 (5月20日(日) 12:00～17:05，東工大岡山キャンパス)
- 出席者：吉田会長，山本副会長，坂本・GJ編集委員長，高橋・和文誌編集委員長，下田，原田，平田，南，豊田の各幹事
- 第2回評議員会の議案整理を行った。
- 2.2.7. GJ 科研費 (研究成果公開促進費)
- ・昨年度状況報告書，実績報告書提出 (三澤前幹事)
 - ・競争入札 (3/29実施，テラパブが落札)
 - ・今年度交付申請書提出 (5/11)
 - ・日本地球惑星科学連合 (JpGU) 「学術情報発信緊急説明会」 (2月17日(金) 15:00～16:00，東京大学理学部，折橋評議員が出席)
 - ・JpGU 第1回科研費成果公開促進費対応臨時委員会 (3月15日(木) 11:00～12:30，東京大学理学部，庶務幹事が出席)
- ・文科省および JSPS による，研究成果公開促進費「学術定期刊行物」の改正に関する説明会 (5月16日(水) 14:00～15:30，スクワール麹町，庶務幹事が出席)
- 2.3. 広報 (原田幹事)
- 2.3.1. 講師派遣事業
- 2012年5月現在の派遣講師登録は19名，2012年は5件の派遣実績 (上尾市立西中学校 (瀧上豊会員)，市立土佐女子中学高等学校 (板井啓明会員)，北陸電力エネルギー科学館 (橘省吾会員)，大分市立滝尾中学校 (川本竜彦会員)，広尾学園中学校高等学校 (丸岡照幸会員))
- 2.3.2. 連合大会，Goldschmidt 2012でのブース出展
- 学会の新パンフレット，GJ express letter のちらし改訂版，学会誌バックナンバー等の展示，ノベルティ (ボールペン) 配布，会員著書販売等を行った。
- 2.4. 企画 (平田幹事)
- 2.4.1. 日本地球惑星科学連合大会 (5月20～25日，幕張メッセ)
- 地球化学会が活動支援してきた「固体地球化学・惑星化学」(固体地球化学セッション：コンペーナ下田，鈴木(勝)，山下会員)に加え，今年から「地球化学の最前線」(領域外・複数領域セッション：コンペーナ高橋，平田，角皆，鍵，鈴木，横山(祐)，横山(哲)，小畑，橘会員)が立ち上げられた。
- 2.4.2. 2012年ゴールドシュミット国際会議 (2012年6月24～29日，カナダ・モントリオール)
- 地球化学会として協賛金 (3000ドル) を支援。日本地球化学会会員は登録費が100ドル割引。
- 2.4.3. 第59回年会 (2012年9月11～13日，九州大学箱崎地区文系キャンパスおよび大学院理学研究院)
- 実行委員長は吉村和久会員。「学会基盤セッション」(評議員が中心となりとりまとめたもの)が17，「特別セッション」(一般公募したもの)が6，計23セッションが提案された。6月中旬から講演申し込みを開始，7月中旬にプログラム委員会を開催する予定。今年も学生賞を開設し，最終日にクロージング・セレモニーを開催し学生に発表賞を授与する。学生賞の選考方式については，現在，評議員の間で議論を進めている。年会に合わせて一般市民講座を開催予定 (内容は未定だが宇宙関係，資源探査

関係を予定)。H 24研究成果公開促進費は不採択であった。年会前日（9月10日）にショートコースを開催予定。5つの講演が確定。HPを開設し、6月から参加申し込みを開始予定。

2.5. 会員（下田幹事）

2月から4月までの会勢は以下の通り。

日本地球化学会会員数（2012年4月30日）

会員種別	人数	契約口数	GJ 冊子希望	不要
一般正会員	732		306	426
学生正会員	129		70	59
うち、学生パック	(39)		(19)	(20)
シニア正会員	58		31	27
賛助会員	10	10	9	1
名誉会員	11		6	5
合計	940		422	518
（寄贈）			17	
（GJ 発送総数）			439	

会員異動（2012/2/1～2012/4/30）

【入会】

（2月）

会員番号	会員名	会員種別
9282676	淵田茂司	学生パック
9282788	春田泰宏	学生パック
9282791	高木悠花	学生パック
9282794	丸井敦尚	一般正会員
9282797	下條将徳	学生パック

（3月）

9282790	木本 洋	学生正会員
9282795	申ギチヨル	一般正会員

（4月）

9282796	野津太一	学生パック
9282799	野口直樹	一般正会員
9282801	石田大也	学生パック

【退会】

（2月）

会員番号	会員名	会員種別
6280594	高江洲 瑩	シニア正会員
8280136	池田耕三	一般正会員
9282659	河野麻希子	学生正会員

（3月）

（4月）

【会員種別変更】

（2月） なし

（3月）

8280437	大森 保	一般正会員	シニア正会員
---------	------	-------	--------

（4月）

9282487	鈴木和博	学生正会員	一般正会員
9282694	尾崎和海	学生正会員	一般正会員
9282701	村井彰宏	学生正会員	一般正会員
9282705	高田理恵	学生正会員	一般正会員

2.6. GJ（塚本編集委員長）

2.6.1. 発行・編集状況（5月20日現在）

2012年 vol. 46, No. 1, 2 は 2, 5 月にそれぞれ発行された。4月30日現在の投稿数は60報、うち受理3, 却下13, 審査中44となっている。特集号は、2011年ゴールドシュミット会議「Fukushima Review」および第58回年会「災害による環境汚染および復興の地球化学」に基づく特集号（首都大・海老原, 東工大・吉田, 広大・高橋の各会員）、第57回年会「南太平洋—パタゴニア地域の地球化学総合研究」に基づく特集号（東大・折橋会員）、第58回年会「水圏環境地球化学—佐竹洋先生記念シンポジウム」に基づく特集号（富山大・張会員）がそれぞれ担当者により編集中。

2.6.2. その他

地球化学会とテラ出版のGJホームページが今期版に改訂された。Free Recent Papers Selected by Editorial Board に1号から1編ずつ追加することをテラと約束、選考は編集長と副編集長で行う。ゴールドシュミット会議のセッションに基づく特集号の掲載論文を発行次第、GJホームページ上でフリーアクセスとすることをテラと約束、初回は「Fukushima Review」の特集号となる。本年のゴールドシュミット会議のコンピーナーの方は是非検討をお願いしたい。該当がない年は、この枠をその他の国際会議特集号に代えることをテラと交渉したいので積極的に特集号編集の検討をお願いしたい。投稿数に対する編集委員不足からAEの補充を検討中。GJ 秘書経費（60万円, 手数料472円）を執行した（2012年2月7日）。

2.7. 和文誌「地球化学」（高橋編集委員長）

2.7.1. 記事掲載予定

【2012年 Vol. 46, No. 2】「特集：東日本大震災から1年」、特別寄稿：海老原充, 福島第一原子力

発電所事故に対する地球化学会の取り組み (済), 総説: 加藤愛太郎, 2011年東北地方太平洋沖地震の特徴について (済), 総説: 鶴田治雄, 放射性核種の挙動 (遅れている), 企画総説「地球化学の最前線」: 高野淑識, 力石嘉人, 大河内直彦, 分子内同位体比で観る海底下のアーキアの生態: エーテル脂質分子内のサルベージ経路と新生経路を例にして (済), 博士論文抄録: 内藤裕一, 骨コラーゲン構成アミノ酸の窒素同位体比を用いた先史日本人集団の食性復元 (済), シュバシシュ クンドウ, 海洋エアロゾルおよびバイオマス燃焼エアロゾル中のジカルボン酸, ケトカルボン酸, α -ジカルボニルの分布とエアロゾル窒素・炭素の安定同位体組成に関する大気化学的研究 (済), 鈴木和博, 海山型石灰岩体の Sr 同位体組成に関する研究—浜名湖西方地域秩父帯石灰岩体を例として— (済), 朝比奈健太, 地球環境変動解析の基盤となるクロロフィルの続成変化の解明 (済)

2.7.2. 現在の投稿状況

投稿論文: 原著論文 1 件, 総説 1 件, その他: 受賞記念論文 1 件, 博士論文抄録 1 件

2.7.3. 特集号「地殻流体」(No. 4): 総説 6 件予定 (3 件投稿済)

執筆予定者: 石川剛, 岡本和明, 加藤愛太郎, 西尾嘉朗, 平賀岳彦, 藤永公一郎・加藤泰浩, 山本順司

(庶務幹事・豊田 栄)

研究集会報告とお知らせ

●2011年度第2回鳥居基金助成実施報告書 (TE-71)

氏名(所属): 唄 康輝 (北海道大学大学院・理学院・博士後期課程)

助成: 海外渡航 (オーストラリア)

課題: 12th International Coral Reef Symposium への参加

この度は鳥居基金の御助成を受けて参加および発表をした, 国際会議の報告をさせていただきます。

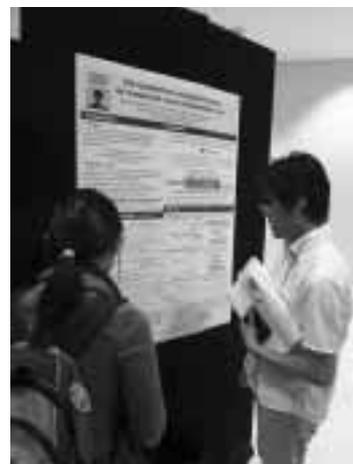
私の研究分野は, 気候変動に対するサンゴの成長応答を, サンゴ年輪を用いて海洋環境情報と石灰化量変遷という形で定量的に明らかにする研究で, 地球化学 (古環境) 分野と生態学の融合領域に属します。私は「No sympathetic temporal trends of temperate

coral calcification rate」と題し, 温帯 (生息北限域) サンゴの経年成長に与える環境因子は海水温や pH だけではないこと, 今後の地球環境変動に伴うサンゴの石灰化量変遷予測をするには, 温帯 (北限) 域では日射や海水の透明度などの考慮も必要なのではないかとの問題提起を, ポスターで発表をしました。

今回発表させていただいた学会は, 国際サンゴ礁シンポジウム2012 (ICRS: International Coral Reef Symposium) といい, 2012年7月8日夜から13日夕方までオーストラリア東海岸にあるケアンズの Convention center で開催されました。ICRS は世界最大規模のサンゴ礁研究の学会です。本学会員の皆様にとっての Goldschmidt 国際会議, のような会議規模を想像していただければと思います。ただし ICRS はゴールドシュミット会議とは違い, 1988年以降は4年に1度しか開催されず, 折しもオリンピック開催年に当たっています。そのため本年度は, サンゴ礁研究者はロンドンではなく, ケアンズに全員集合, ということになりました。

ICRS 2012の出席者は約80ヶ国から約2000人を越えたことが公式に発表されました。発表は, 22のシンポジウムテーマの中から更に72のミニシンポジウムに分かれ, 朝9時から夕方6時まで絶え間なく行われました。毎朝と昼には plenary の発表が挟まれ, 刺激的なものとなりました。また期間中は, 学会からバイキング形式の豊富な飲み物や食べ物が昼食や coffee break で提供されました。そのため出席者は発表への出席に集中することができました。

私の発表分野について報告させていただきます。ポスター発表は全シンポジウムテーマで236件に達した



発表風景

ことが公式に発表されました。私は「Ocean acidification」セッションの「Growth records in coral cores」ミニシンポジウムでポスター発表を行わせていただきました。ポスター発表は学会初日の1時間30分だけでしたが、アイスブレイクも兼ねており、飲み物などが配られ、ほどよい緊張感の中で議論ができました。

自分の研究分野以外にも、大変興味深い研究を多く拝聴いたしました。もちろん研究発表だけではなく、旧知の海外研究者との親交を深めるとともに、本分野の若手研究者との出会いや、論文上でのみ名前を存じ上げている研究者と触れ合うことができ、大変有意義な時間を過ごさせていただきました。今回は鳥居基金の援助によって、ICRS 2012に参加することができました。このような素晴らしい基金によって、学会員の皆様が同じような、更にそれ以上の体験をして帰国することを切に望んでおります。この度は基金を提供していただき、大変ありがとうございました。この場を借りて、厚く御礼申し上げます。

●2012年度第1回「鳥居基金」助成実施報告 (TE-72)

氏名 (所属)：安田早希 (九州大学大学院理学府地球惑星科学専攻)

助成：国内研究集会

課題：日本地球化学若手シンポジウム2012

今年度の地球化学若手シンポジウムは、9月14日～16日福岡県休暇村志賀島で開催されました。遠方にも関わらず、7つの大学より28名 (学部4名、修士課程

14名、博士課程10名)の参加登録があり、ポスター発表12件、口頭発表11件の応募をいただきました。また、瀬戸蘭美先生 (奈良女子大学)、高野淑識先生 (海洋研究開発機構)、野崎達生先生 (海洋研究開発機構)の3名の先生方が招待講演を引き受けてくださいました。

口頭発表やポスター発表を通して活発な議論が行われ、幅広い分野から集まったにもかかわらず、絶えず質疑応答がされていました。懇親会では、それぞれの研究生活など、さまざまな話題を通して参加者同士が積極的な交流をしていました。同じ世代の若手研究者と交流する良い機会となったことと思います。グループディスカッションでは、「自分の研究を社会に貢献させるには」、「モチベーションの上げ方」、「地球化学を志した理由とこれから成し遂げたいこと」、「その他」のお題から選択し、グループに分かれてディスカッションを行いました。各グループがそれぞれに楽しく、しかし、真剣に白熱した議論が活発に行われていた様子が印象的でした。本シンポジウムは、新たな交流・視点・着想が生まれ、これからの研究への刺激となることを目標にして開催致しました。このシンポジウムを通して、参加された皆様が一つでも多く得るものがあつたことを願っております。

開催にあたっては、準備段階から多くの方々に支えていただきました。前幹事様方より最初から最後まで、多くの情報、アドバイスを頂き、大変お世話になりました。この場を借りて御礼申し上げます。本シンポジウム事務局は、九州大学無機生物圏地球化学研究



集合写真

室と、有機宇宙化学研究室の学生を中心に構成されました。役割分担によって、仕事がスムーズに進むよう工夫いたしました。広報ではポスターを作製して配布したり、メールにて各研究室に声を掛けたり、地球化学会のメールニュースで情報を流していただいたりしました。来年度はさらに多くの若手研究者に積極的に参加していただき、若手同士の交流が盛り上がることを期待しております。

最後になりましたが、本シンポジウムは鳥居基金の助成によって実行することができました。誠にありがとうございました。

●2012年度第1回「鳥居基金」助成実施報告 (TE-73)

氏名 (所属)：尾崎和海 (東京大学大気海洋研究所
地球表層圏変動研究センター)

助成：海外渡航 (カナダ)

課題：「第22回ゴールドシュミット会議での研究発表
(2012年6月22～30日, カナダ)」

本年のゴールドシュミット会議 (Annual V. M. Goldschmidt Conference) は、カナダのケベック州モントリオールで6月24～29日にわたって開催されました。会場の Palais des congrès はモントリオールのダウンタウンに位置し、中華街や旧市街に臨んだ会場でした。研究発表は23テーマ、157セッションにまたがっており、参加人数も2857名であったとのことで、地球化学分野として最大級の学会の雰囲気を実感するものでした。

私にとってゴールドシュミット会議への参加は、プラハ (チェコ) で行われた前年の会議に引き続き2回目でした。ゴールドシュミット会議では連日興味を惹

かれる発表が行われるため、複数の会場を行き来しながら研究情勢を知ることができます。本年度は全球スケールの物質循環を数理的に議論する欧米の研究グループが複数参加しており、私の研究・興味と密接に関連することもあって、非常に有意義なものでした。私個人で会議全体の様子をうかがい知ることは難しいですが、先カンブリア時代の気候・海洋環境や陸上風化に関して複数のセッションがあり、活発な議論がなされていた印象がありました。一方で、古生代—中生代の古気候・古海洋学的研究は研究発表数がそれほど多くなく、発表も複数のセッションに散らばってしまっていたことが残念でした。

私の研究発表は“Climate Evolution: Processes and Records”というテーマの“Seawater chemistry changes through time”というセッションで行いました。タイトルは“Modeling ocean acidification and de-oxygenation: Testing the linkage between large igneous province and Oceanic Anoxic Event”であり、大気中への二酸化炭素の流入現象が引き起こす気候変化と海洋環境変化 (海洋酸性化・貧酸素化) について数値シミュレーションを用いて検討したものです。この研究では地質時代に生じた海洋酸性化や海洋貧酸素化現象を説明するのに要求される二酸化炭素の流入シナリオを制約することを目指すと同時に、予想される気候変化や炭素同位体比記録についても議論を行いました。地質学者や地球化学分析を専門とする研究者等、モデリング研究以外を専門とする研究者との議論をもてたことは非常に大きな収穫でした。

この度の助成制度により、海外の研究者との直接的な議論や面識をもつことができました。厚く御礼申し上げます。

ニュースへ記事やご意見をお寄せください

地球化学に関連した研究集会、書評、研究機関の紹介などの原稿をお待ちしております。編集の都合上、電子メールでの原稿を歓迎いたしますので、ご協力の程よろしくお願いいたします。次号の発行は2013年3月頃を予定しています。ニュース原稿は1月下旬までにお送りいただくよう、お願いいたします。また、ホームページに関するご意見もお寄せください。

編集担当者（日本地球化学会ニュース・HP 幹事）

川幡穂高

〒277-8564 千葉県柏市柏の葉5-1-5
東京大学大気海洋研究所
海洋底科学部門

Tel : 04-7136-6140

E-mail: news-hp@geochem.jp

原田尚美

〒237-0061 神奈川県横須賀市夏島町2-15
海洋研究開発機構（JAMSTEC）
地球環境変動領域

Tel : 046-867-9504 / Fax : 046-867-9455

E-mail: news-hp@geochem.jp